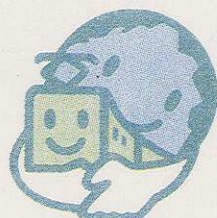


昨年2月に京都議定書が発効し、地球温暖化防止への取り組みの重要性がますます高まっている。そうしたなか、物流部門で見直されているのが鉄道コンテナだ。

生産者から消費者へと運ばれる商品。これらの輸送をトラックから鉄道にモーダル・シフトした場合、二酸化炭素(CO₂)の排出量は8分の1に削減できるという。

社団法人「鉄道貨物協会」で

鉄道コンテナ 促進呼び掛け



エコレールマーク

は、環境にやさしい鉄道コンテナの利用を促進するため、昨年度から鉄道輸送に積極的な企業や商品を認定する制度「エコレールマーク」＝写真＝をスタートさせた。

同協会によると、スタートから1年で認定企業は21企業、認定商品は5件に。日本が世界に公約した6%CO₂削減に、荷主企業と物流業者がともに取り組んでいる。